



NIDEON が新しく開発した Japan シリーズのプラグは日本人職人の長年の伝統技術をオーディオプラグに応用した「日本の美」をイメージしたプラグです。

サヤのデザイン、漆塗りは職人を探すところから、完成まで何年もかかったプラグです。

プラグ本体も、今までの業界レベルをはるかに超えている NIDEON の金めっき厚をも超えた金めっき厚を施し、金の美しさを長くとどめる手間がかかったプラグです。詳細を説明していきます。

本プラグの特長

- 1 プラグ本体は通常の NIDEON プラグと同じ黄銅材料を使用しました。

純銅プラグの製造も考えましたが、コストがかかりすぎて皆様の手に届かないことになることを避けるために、今回は黄銅を採用しました。黄銅は切削性が良く、形状を正確に削り出せる材料です。数ある黄銅の中でも電気特性の良い黄銅を使用しています。（黄銅も添加物や添加量により沢山の種類があります。）

- 2 金めっきの厚さ

金は絵画、彫刻、漆器、陶磁器、着物など数多くの日本の伝統美術を支えた材料です。

通常、市販されている多くのプラグの金めっきの厚さはフラッシュめっきのレベルです。今回の Japan シリーズでは金を酸化防止のための材料としてだけでなく、その輝きを芸術と考え、劣化を抑え、長期にわたって美しい輝きを保てるように金めっきの厚さを $1\mu\text{m}$ 以上の過去に例のないような厚さを施しました。このめっきの厚さは通常のめっきを行う金めっき槽（金めっきを行う金を溶かした槽）では均一な厚さの金めっきができません。専門の槽で厚い金めっきに適した条件で作らなければこの厚さのめっきは難しいです。（通常の NIDEON のめっき工程、めっき現場とは異なります。）金価格が高騰している現在、コストを無視しためっきで、めっき職人もお願いした時、「コストがかかりすぎますよ。本当にやるんですか？」と驚いていました。



金めっき工程は数多くの工程を行います。これはその一工程の写真です。

3 さや（ケース）デザイン

Japan シリーズのさやのデザインは、いつも弊社のデザインをお願いしている **NHK、朝日新聞でも紹介されたデザイナー**にデザインをお願いしました。

デザイナーには最初に基本的なサイズと、Japan シリーズ用に試作した何種類もの絹糸のケーブルを渡して自由にデザインをしてもらいました。日本らしい曲線を活かした、なめらかなデザインになったと思っています。

3 加工

加工を担当したのは**公的機関から「匠の職人」として認定された、弊社の製品を加工しているいつもの職人さん**です。

プログラミングによる自動加工ではなく、手作りにこだわったために、デザイナーが要求した曲線加工を行うのは大変難しい工程になりました。

加工方法は社外秘ですが、かなり苦勞してもらってデザイナーも満足する曲線加工がようやくできました。このなめらかな日本的な曲線はなかなか出せるものではないと思います。日本的な美を生かした優雅な曲線になっていると思います。



匠の職人が加工を行っています。

4 漆塗りデザイン

Japan シリーズのデザイン上の大きな特徴は漆塗りです。このデザインもさやのデザインを担当したデザイナーです。本来なら1色で行うのが技術的にもコスト的にも楽なのですが、完成したデザイン画は、赤と黒の2色。しかも2段に色分けするのではなく、融合、融和させるように滑らかに色を変化させるデザインでした。「果たしてこんなことができるのか？」デザイン画が完成した時に思ったのが正直な気持ちでした。

5 漆塗り（すみません、技術的な話は全くなく単なる苦勞話です。）

本シリーズで一番苦勞したのが漆塗りでした。その他の工程は今まで経験した職人やメンバーがいるのですが、漆塗りは初めての経験で、できる職人を探すのが大変でした。多くの漆は木製品に施すことが多く、金属に行くことを躊躇され続けました。一番有名な輪島塗（石川県）ですが、相談すると、輪島塗は木の種類、産地、加工方法などがすべて決められていて当社のさやは金属であることですぐに輪島塗にはならないと判断されました。ほかの漆塗りの地方でも金属に漆を塗る事はできても長く持たせることができないなど、弊社のサヤに漆塗りできる職人が見つからず、職人を探して色々ないろいろな地方まで旅行を続けました。ある山中にある集落で漆を展示している場所に行った時、地元の人に声をかけられて、目的を説明すると「〇〇さんなら相談に乗ってくれるかもしれない」と言われ、手書きの地図をもらい、歩いて向かった先で会ってくれた職人が今回の漆塗りを担当してくれる人になりました。たぶんできるだろうとの話だったので、日を改めて、デザイナーと打ち合わせに行き（山登りまでは不要ですが、新幹線、在来線、バス、徒歩と乗り継ぎ、必ず1泊しなければ打ち合わせが不可能な場所です。）何度も打ち合わせをしながら完成したのがこの漆塗りです。心配していた2色のグラデーションの漆塗りも問題なく完成させてくれました。

一個一個手塗りのため、個体差が出ています。この職人さんには漆の木が育てられている畑まで連れて行ってもらい、漆の採取方法、漆の色付、ごみの除去方法、漆の塗り方など各工程も見せてもらいました。この地域は鎌倉時代から続く漆の里で、木材を育てる森、漆を育てる畑、木材を加工する工場、などすべてがそろった山の中でした。流通の悪かった当時は自前ですべてをそろえる必要があったのだと思います。



育成中の漆の若木です



成長した漆の木です。傷がついて居る所は樹液を採取したところです。



実際に漆塗りを行っているところです。職人の作業着は漆で汚れています。
漆塗りは埃やチリを嫌うために私は作業部屋に入ることはできませんでした。
これはガラス越しの写真です。

漆塗りと言われるものでも、ラッカーを漆塗り風に加工したものや、海外のカシューと言われる漆もありますが当社が
Japan 用に使用しているのは本漆です。(カシューは漆としての表示が許されているようです。)

本漆を使い日本らしい曲線をいかしたプラグです。

本物の日本の美を感じさせるプラグは本製品以外にはなかなか見つけられないと思います。

手間暇かけて作った漆プラグです。本プラグはオーディオ部品でもありますが、芸術品としての価値が大きいです。どうぞ下の取り扱い事項を読んでいただき、芸術品と同等に取り扱っていただき、末永くきれいな状態でお使いいただけるようお願いします。

漆プラグの取り扱い注意事項

- ・ぶつけないでください。（衝撃を与えないでください。）

金属の上に本漆を施しています。硬い物にぶつけると容易に漆が剥がれます。特に地面に落としたり、オーディオ機器にぶつけないようにしてください。また、オーディオにつないだままでポケットやバッグの中に入れて持ち歩くことは避けてください。持ち運びはできるだけ柔らかい布などに包むなど丁寧に取り扱いして下さい。

- ・太陽・紫外線を避けてください。

長期間太陽光の下に置くことは避けてください。本漆が硬化したり、変質したりする可能性があります。

- ・水を避けてください

本漆は水に弱いです。水に漬けたり汗に長時間触れたりすることがないようにしてください。

- ・擦らないでください。

本漆は柔らかいものです、硬い布で強く拭いたり爪を立てたりすると傷がつきます。必要な場合は柔らかい布で優しく拭いてください。（汗を取る場合は擦らず柔らかい布を当てて水分だけを吸い取ってください。）

- ・漆アレルギーのある方は使用しないでください。

かぶれる成分はほとんど残っていませんが、「絶対にかぶれません。」とは言い切れません。漆に敏感な方、漆に不安のある方は使用をお控え下さい。

漆プラグは芸術品でもあります。外観については初期不良以外、保証や交換は行えません。

取り扱い方法を熟知して末永くきれいな状態でお使いいただけることを願っています。